

日本の戦争国家化許すな

日刊 労働千葉

85. 7. 29

No. 2001

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二五三六・（公衆）〇四七二二二七二〇七



190名の労働者、市民が結集

7・26「飛鳥田一雄講演会」成功なる

七月二六日、千葉市民会館において「許すな破防法、つぶそう国家機密法、7・26飛鳥田一雄講演会」が開かれ、侵略戦争への道を突き進む反動中曾根内閣の「破防法」をはじめとする超反動攻撃に対し、再び暗黒の時代をくり返さないために一人ひとり立ちあがり、中曾根打倒の広範な戦線をつくり出すことを誓い合った。

「破防法」粉砕の一大国民運動をつくり出そう

集会は十八時に始められ映画「指紋捺捺拒否」が上映された後、会場を埋めた一九〇名の参加者を前に、司会の中江船橋市議は「今立ち上がらなければ、立ち上がる時はない」と、戦争国家化阻止への決起を呼びかけた。

つづいて、集会呼びかけ人が次々と立ってあいさつした。小川寛弁護士は「中曾根の総決算攻撃によって恐るべき転換の時機が到来しているが、破防法との闘いがたち遅れている。この集会をきっかけに、運動を盛りあげていきたい」と述べ、石本剛氏（元教員）、永松三恵子氏（フリーライター）、奥野まさお氏（市川市議）、さらに賛同人の戸張サト氏（習志野市議）、安藤肇氏（日本キリスト教団牧師）から、「ファシズム―戦争への道を許さぬために、破防法粉砕を闘う」との決意が明らかにされた。

平和は斗いとるもの

飛鳥田一雄氏が呼びかけ

動労千葉を代表して発言にたった山口副委員長は、はからずも今日出された監理委員会の「分割・民営化」一十万人首切り、「答申」について、「国鉄労働運動の一掃を通して官公労、日教組、自治労を解体し戦争へ動員しようとするもの」と厳しく弾劾するとともに、「破防法国家機密法をはじめとする中曾根の戦争体制構築の攻撃と対決し職場、地域から斗いをすすめていく」と、力強い決意を表明した。

集会の雰囲気が高潮に達する中、いよいよ飛鳥田一雄前社会党委員長が万雷の拍手を浴びて登壇した。飛鳥田氏は「一見『平和』に見える社会のうらで、中曾根が恐るべきたくらみを企てている事実

を知らなければならぬ」として、「国家機密法」「破防法」について、過去の例をも引き合いに出しながら、その恐るべき本質についてわかりやすく話された。

そして、こうした中曾根の攻撃が戦争への道であることを暴露し「再び暗黒の時代をくり返さないために、いまこそ立ちあがろう。平和は願望ではなく斗いとるものだ。言論の自由を守るために壮大な国民戦線をつくり出そう」と訴えられた。飛鳥田氏の「反戦・平和を具体的行動で斗いとる」との熱烈な呼びかけは、全参加者に深い感撃動を与え、鳴りやまぬ拍手で確認された。

「8・4国民大集会」に結集しよう

集会は、最後に「4・28破防法被告団」の青木忠氏が立ち、「われわれ被告は『自分が正しいと思うことをしゃべってなげいけないのか、国家はこのことに答えてみる』をスローガンに十六年闘ってきた。破防法は私達だけの問題ではない。今後もすべてをかけて闘っていく」との断固たる決意をうけ、来る「8・4言論・表現の自由を守る破防法廃止をめざす国民大集会」への大結集を確認し、成功裡に終了した。



動労千葉を代表して、あいさつする山口副委員長